おうちの方へ

「無償の愛」こそ最高のプレゼント

教育評論家
尾木 直樹

私たちは日々、むやみに子どもたちに「ごほうび」目当てに頑張らせていないでしょうか。「宿題終わったらオヤツあげるね」「お掃除手伝ってくれたら百円あげる」などと、あの手この手で仕向けます。

子どもは純粋です。そう言われれば、オヤツやほしい物、お金目当てに、せっせと宿題をやり、勉強し、お手伝いするようになります。

でも、子どもが本来持っている素直な心、動機とは、どんなものでしょう。「お母さんを助けてあげたい」という思いやり。「わかるようになるって楽しい」「もっと勉強ができるようになりたい」という探究心や向上心。そんな純粋な心、動機があるから、頑張るのではないでしょうか。

そんな素敵な心をつぶしてしまい、物ほしさに頑張るようにしているのは大人のほうなのです。ミミーが次々とクッキーをあげてしまう行為は、他者への〝無償の愛〟です。目当てがあったからではありません。

まずは、ウルフやコンコンがクッキーを食べてみたいと言ってきます。ウルフは、弟たちにもあげたいと。ミミーはお母さんの手作りクッキーがとびきりおいしいことを知っています。だから、お友だちにも食べてほしい、と素直に思い、少しためらいながらも分けてあげるのです。

次に、腹ペコで元気のないくまのおじいさんに出会います。ここでミミーは、迷った末に、今度はおじいさんを助けてあげたい、という気持ちから、自らクッキーを差し出します。もうクッキーはなくなってしまうのに……。

おばあちゃんは、ミミーにこんな〝無償の愛〟の優しさと力強さが育っていることを、心からうれしく思います。自分の誕生日のプレゼントよりも。そして、ミミーを抱きしめ、その気持ちを伝えるのです。

おばあちゃんに抱きしめてもらって、ミミーも、自分の気持ちや行動は正しかったんだと安心し、誇らしかったに違いありません。